

# クレゾールの分解度試験成績報告書

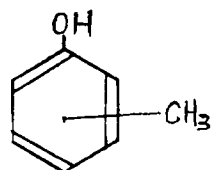
1. 試験期間 昭和50年8月29日～昭和50年10月7日

2. 試料名 クレゾール (試料No K-112)

分子式  $C_7H_8O$       O-クレゾール      0.1%

構造式      m-クレゾール      62.3%

P-クレゾール      37.1%



## 3. 試験方法及び条件

環 保 業 第 5 号  
薬 発 第 6 / 5 号 } 微生物等により化学物質の分解度試験による  
49基局第392号

### 3.1 試験装置

酸素消費量自動測定機

### 3.2 酸素消費量測定

3.1の記録による

### 3.3 生分解試験後の直接定量法

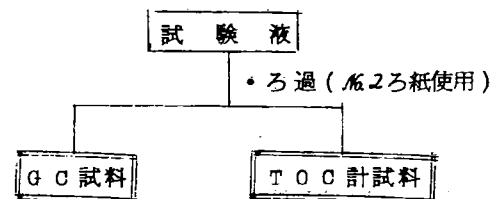
#### (a) 使用分析機器

全有機炭素分析計

ガスクロマトグラフ 検出器 FID

(以下次頁に続く)

## (b) 分析試料の前処理



## (c) 分析条件

全有機炭素分析計 (TOC 計)

流速 TC 回路 200 ml/min

温度 TC 炉 880℃

ガスクロマトグラフ (GC) 検出器 FID

キャリアガス  $N_2$

充てん剤 KG-01/ユニポートKS

ガラスカラム 2mmφ×2m

カラム温度 134℃

## 4. 試験結果

	分解度 (%)	付 図	付 表
酸素消費量による結果	49.7	1	—
全有機炭素分析計	69.3	2	1
GC による結果	70.9	3	2

(以下次頁に続く)

## 5. その他

K-1/2はオルト、メタ、パラの組成から出来ており、分解度はパラクレゾールは100%分解しているが、メタクレゾールは約45%残留していた。又オルトクレゾールは試料中の1%しか含まれておらず、分解については不明である。

なお、参考試験としてクレゾールの各種異性体を別途クロマトーにて酸素吸収を測定した。(図-4参照)

以 上